

【資料4】

新潟市精神科病院任意入院者実態調査結果報告

1 調査概要

(1) 目的

市内の精神科病院の任意入院者の実態を調査し、社会復帰に必要な社会資源およびサービスを把握することで、精神保健福祉施策に資することを目的とする。

(2) 対象者

調査基準日において、市内の精神科病院に1年以上入院している任意入院者

(3) 調査基準日

平成25年6月30日

(4) 調査項目

(a) 住所地

(b) 性別

(c) 年齢

(d) 経済基盤

(e) 障害者手帳の有無

(f) その他利用サービス

(g) 病名(ICD10)

(h) 入院期間

①任意入院の期間

②今回の入院期間

(i) 退院の可否

※(j)～(o)は退院可能とされた場合のみ回答

(j) 退院ができない理由

(k) 退院を可能にするための住居・施設

(l) 退院を可能にするための医療・保健の支援

(m) 退院を可能にするための経済支援

(n) 退院を可能にするための生活支援

(o) 退院後の生活において必要と思われる就労支援

2 対象者全体の概要

(1) 対象者の概要

対象者の総数は、415名で、うち男性が196名(約47%)、女性が219名(約53%)であった。年齢については、10代、20代の対象者は0名であったのに対し、65才以上の高齢者が254名で全体の約62%であった。また、病名別については、F2(統合失調症等)が308人と最も多く、全体の約74%であった。

対象者415名のうち、退院可能な病状と判断された人が172名と全体の約41%であった。この172名が入院継続している理由としては、「本人の退院意欲の低下」が最も多く、次いで「家族力の低下で支援が得られない」であった。

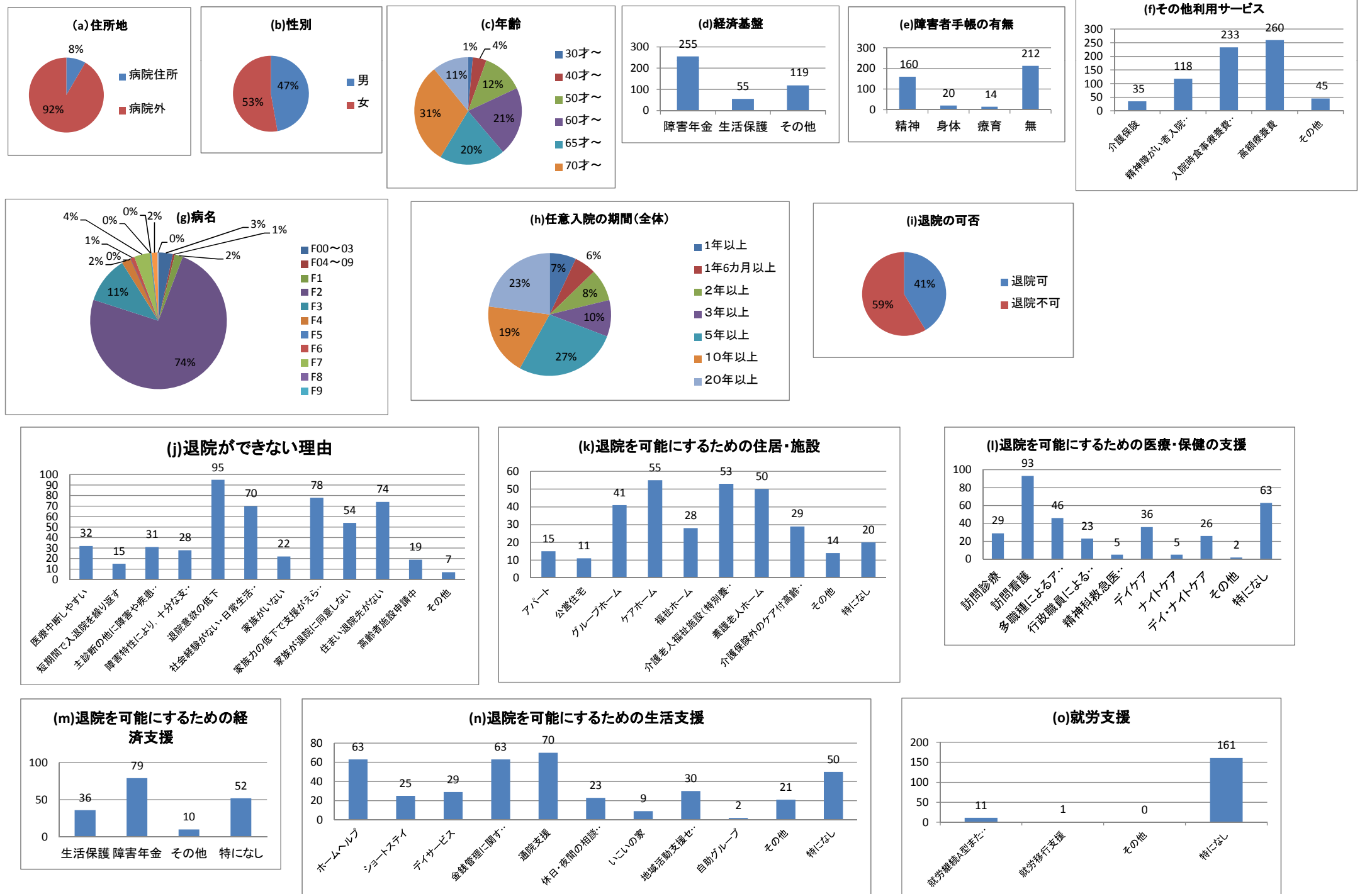
(2) 退院する為に必要な支援

退院可能と判断された172名のうち、病院スタッフが考える、退院する為に必要な支援について「住居・施設」「医療・保健の支援」「経済支援」「生活支援」「就労支援」の5つの分野別に調査を行った。

表1 対象者全体の概要

区分	(a) 住 所 地	(b) 性 別	(c) 年 齢	(d) ※経 済 基 盤	(e) 有 障 害 者 手 帳 の 有 無	(f) サ ー ソ の 他 利 用 サ ー ビ ス	(g) 病 名	(h) 任 意 入 院 の 期 間	(i) 退 院 の 可 否	(j-l) 退院する為に必要な支援					(m) ※経 済 支 援	(n) ※生 活 支 援	(o) ※就 労 支 援
										な 退 院 理 由 が 由 で ※ き	※住 居 ・ 施 設	の 医 療 支 援 ・ 保 健 ※ 健	※住 居 支 援	※生 活 支 援			
1	病院 住所	35男	196 30才～	6 障害 年金	255 精神	160 介護 保険	35 F00～03	14 1年以 上	29 退院 可	172 医療 中断 しやすい	32 アパ ート	15 訪問 診療	29 生活 保護	36 ホーム ヘルプ	63 就労 継続A 型 または B型	11	
2	病院 外	380女	219 40才～	17 生活 保護	55 身体	20 精神 障がい 者入 院医 療費 助成 制度	118 F04～09	2 1年6 か月 以上	24 退院 不可	243 短期 間で 入退 院を 繰り 返す	15 公営 住宅	11 訪問 看護	93 障害 年金	79 ショ ート ステ イ	25 就労 移行 支援	1	
3			50才～	52 その 他	119 療育	14 入院 時食 事療 養費 の減 額	233 F1	8 2年以 上	35	主診 断の 他に 障害 や疾 患が ある	31 グル ープ ホーム	41 多職 種に よる アフ トリ ーチ 支援	46 その 他	10 デイ サー ビス	29 その 他	0	
4			60才～	86	無	212 高額 療養 費	260 F2	308 3年以 上	40	障害 特性 によ り、 十分 な支 援体 制が 必要	28 ケア ホーム	55 行政 職員 によ る訪 問指 導	23 特にな し	52 金銭 管理 に関 する サー ビス	63 特にな し	161	
5			65才～	82	不明	22 その 他	45 F3	46 5年以 上	113	退院 意欲 の低 下	95 福祉 ホーム	28 精神 科救 急医 療体 制	5	通院 支援	70		
6			70才～	127			F4	9 10年 以上	79	社会 経験 がな い・日 常生 活維 持能 力が ない	70 介護 老人 福祉 施設 (特 別養 護老 人ホ ーム)	53 デイ ケア	36	休日 ・夜 間の 相談 体制	23		
7			80才～	45			F5	0 20年 以上	95	家族 がな い	22 養護 老人 ホーム	50 ナイト ケア	5	いこ いの 家	9		
8							F6	4		家族 力の 低下 で支 援が えら れない	78 介護 保険 外の ケア 付高 齢者 住宅	29 デイ ・ナ イト ケア	26	地域 活動 支援 セ ンタ ー	30		
9							F7	16		家族 が退 院に 同意 しな い	54 その 他	14 その 他	2	自助 グル ープ	2		
10							F8	0		住ま い退 院先 がな い	74 特にな し	20 特にな し	63	その 他	21		
11							F9	1		高 齢者 施設 申請 中	19			特にな し	50		
12							てん かん	6		その 他	7						
13							その 他	1									
合計	415	415	415	429	428	691	415	415	415	525	316	328	177	385	173		

※については、複数選択。



3 退院可能とされた人の概要 年代別(30~49才以下)

質問項目(i)で退院可能な病状であるされた人について、年齢別に分類した。
30才~49才の対象者について、下記の通りとまとめた。

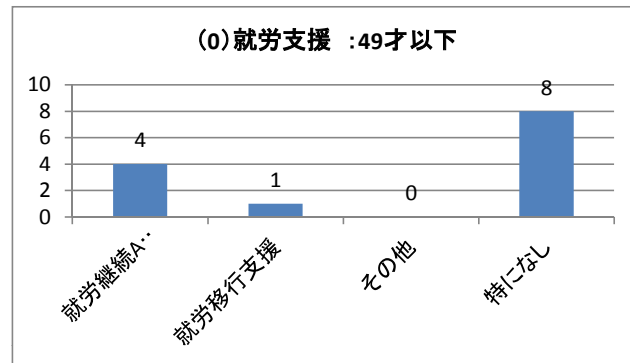
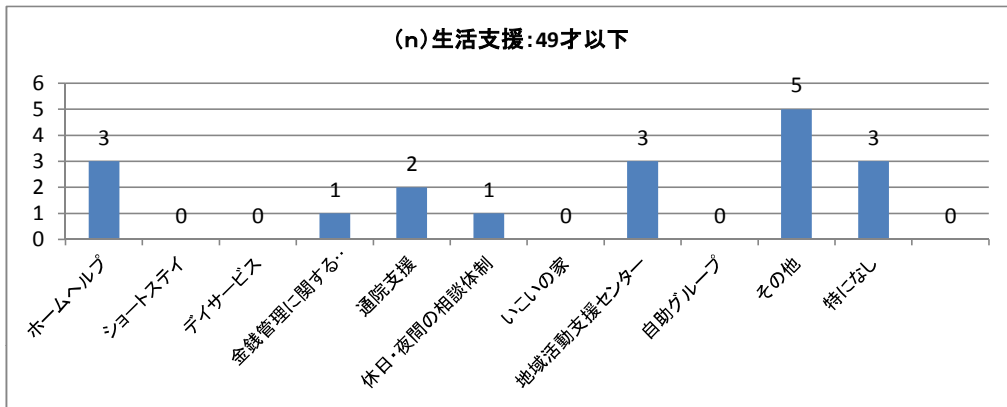
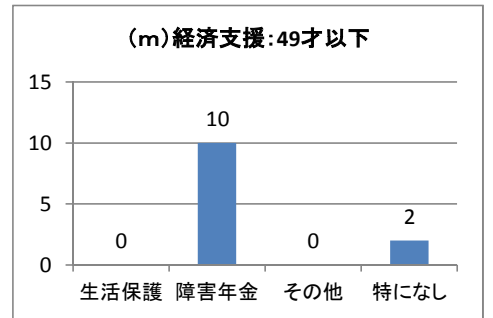
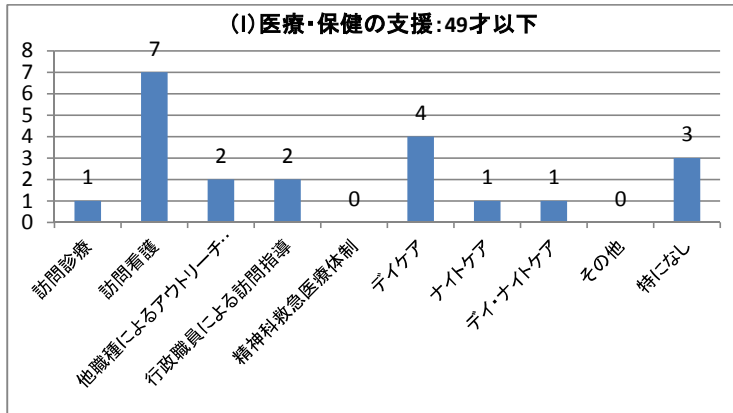
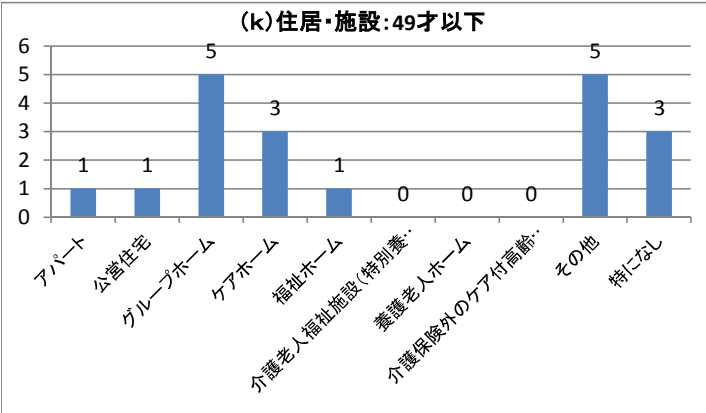
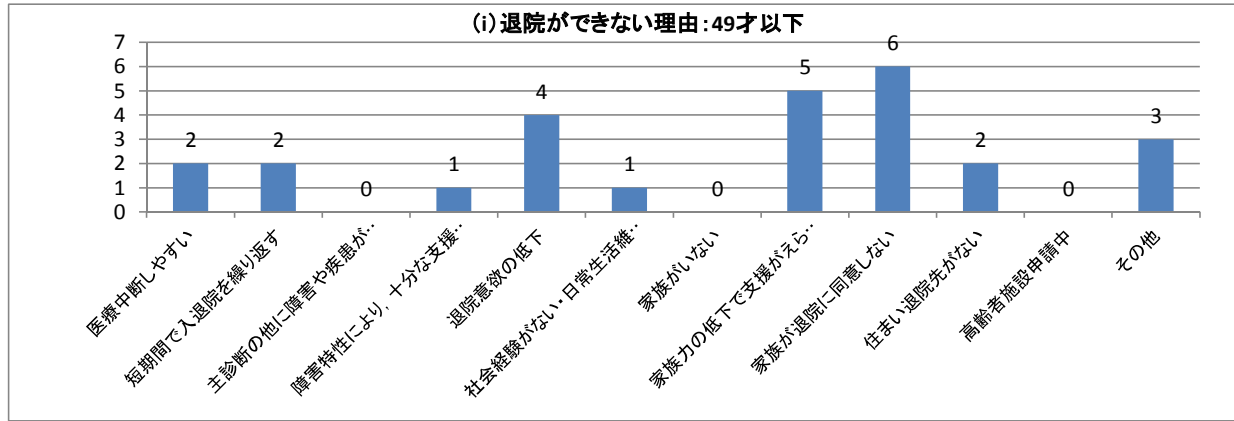
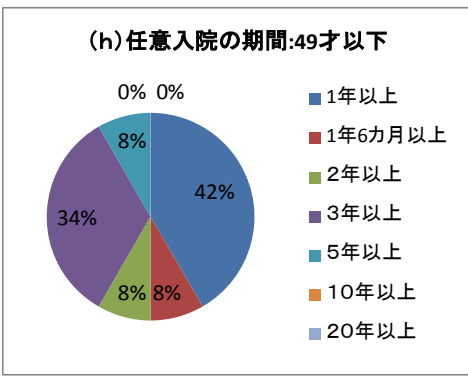
【ポイント】

- ・49才以下で退院可能な病状であるとされたのは、12名。
- ・任意入院期間が1年以上1年半未満の人が最も多く、比較的入院期間が短い傾向であった。
- ・退院できない理由としては、「家族が退院に同意しない」「家族力の低下で支援が得られない」等、家族要因によるものが多い傾向であった。
- ・退院の為に必要な「住居・施設」については、グループホームが最も多かった。

表2 退院可能とされた人の概要 年代別(49才以下)

区分	病名	(g)		(h)		(i)		(k)		(l)		(m)		(n)		(o)	
		任意入院の期間	退院ができない理由 ※	住居・施設 ※	医療・保健の支援 ※	経済支援 ※	生活支援 ※	就労支援 ※									
30才~49才	1 F00~03	0	1年以上	5	医療中断しやすい	2	アパート	1	訪問診療	1	生活保護	0	ホームヘルプ	3	就労継続A型またはB型	4	
	2 F04~09	0	1年6カ月以上	1	短期間で入退院を繰り返す	2	公営住宅	1	訪問看護	7	障害年金	10	ショートステイ	0	就労移行支援	1	
	3 F1	0	2年以上	1	主診断の他に障害や疾患がある	0	グループホーム	5	他職種によるアウトリーチ支援	2	その他	0	デイサービス	0	その他	0	
	4 F2	11	3年以上	4	障害特性により、十分な支援体制が必要	1	ケアホーム	3	行政職員による訪問指導	2	特になし	2	金銭管理に関するサービス	1	特になし	8	
	5 F3	0	5年以上	1	退院意欲の低下	4	福祉ホーム	1	精神科救急医療体制	0			通院支援	2			
	6 F4	0	10年以上	0	社会経験がない・日常生活維持能力がない	1	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	0	デイケア	4			休日・夜間の相談体制	1			
	7 F5	0	20年以上	0	家族がいない	0	養護老人ホーム	0	ナイトケア	1			いこいの家	0			
	8 F6	0		0	家族力の低下で支援がえられない	5	介護保険外のケア付高齢者住宅	0	デイ・ナイトケア	1			地域活動支援センター	3			
	9 F7	0		0	家族が退院に同意しない	6	その他	5	その他	0			自助グループ	0			
	10 F8	0		0	住まい退院先がない	2	特になし	3	特になし	3			その他	5			
	11 F9	0		0	高齢者施設申請中	0							特になし	3			
	12 てんかん	1		0	その他	3								0			
	13 その他	0		0													
合計		12	12			26		19		21		12		18		13	

※は複数選択。



4 退院可能とされた人の概要 年代別(50～64才)

質問項目(i)で退院可能な病状であるされた人について、年齢別に分類した。
50才～64才の対象者について、下記の通りとりまとめた。

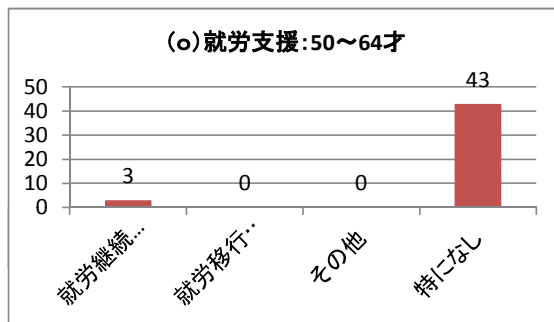
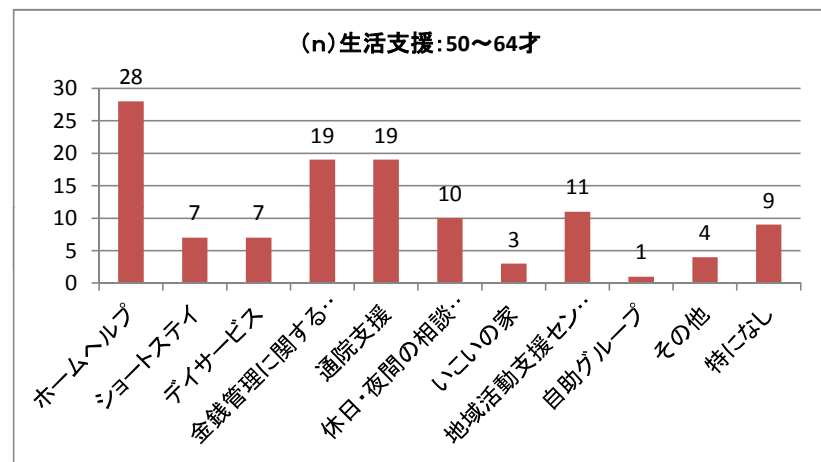
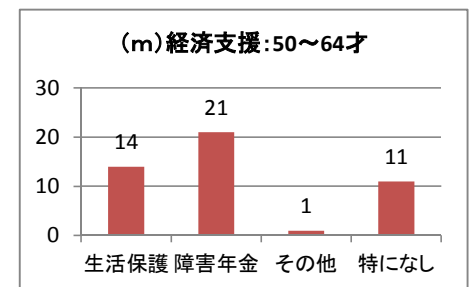
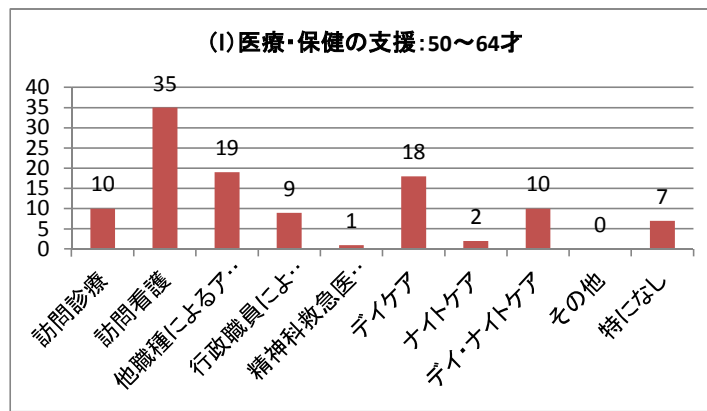
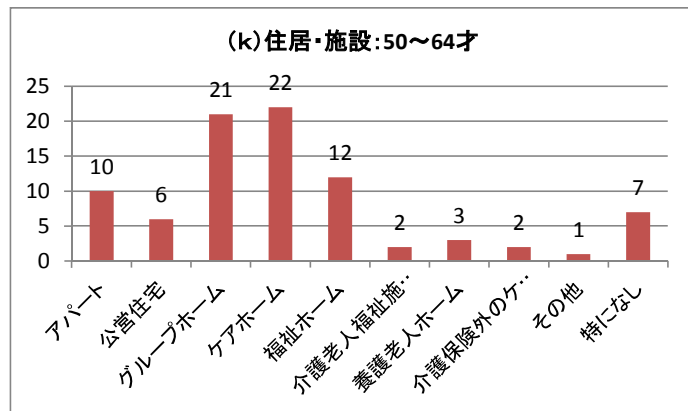
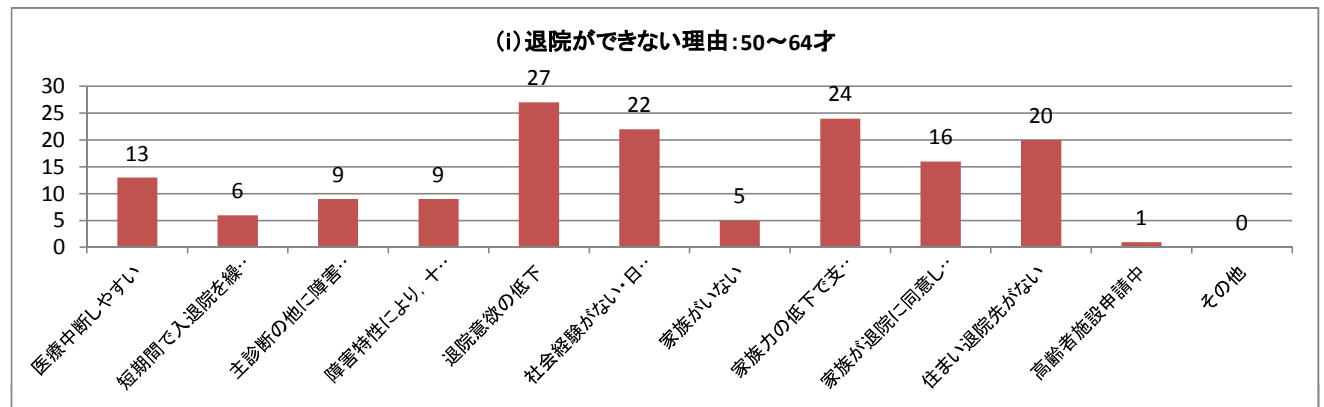
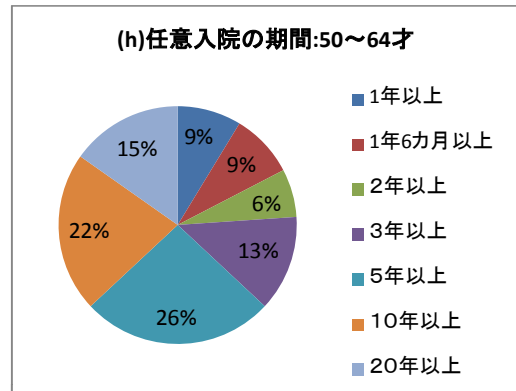
【ポイント】

- ・50才～64才で退院可能な病状であるとされたのは、46名。
- ・任意入院期間が5年以上の人は29名(約65%)おり、うち20年以上の人も7名いた。
- ・退院できない理由としては、「退院意欲の低下」が最も多く27名、次いで「家族力の低下で支援が得られない」24名、「社会経験がない日常生活維持能力がない」が22名であった。
- ・退院の為に必要な「住居・施設」については、ケアホーム22名が最も多く、次いでグループホーム21名が多かった。
- ・退院の為に必要な「生活支援」については、ホームヘルプ28名が最も多かった。

表3 退院可能とされた人の概要 年代別(50才～64才)

区分	(g)		(h)		(i)		(k)		(l)		(m)		(n)		(o)	
	病名	任意入院の期間	退院ができない理由※	住居・施設 ※	医療・保健の支援 ※	経済支援 ※	生活支援 ※	就労支援 ※								
1	F00～03	0 1年以上	4 医療中断しやすい	13 アパート	10 訪問診療	10 生活保護	14 ホームヘルプ	28 就労継続A型またはB型	3							
2	F04～09	0 1年6カ月以上	4 短期間で入退院を繰り返す	6 公営住宅	6 訪問看護	35 障害年金	21 ショートステイ	7 就労移行支援	0							
3	F1	1 2年以上	3 主診断の他に障害や疾患がある	9 グループホーム	21 他職種によるアウトリーチ支援	19 その他	1 デイサービス	7 その他	0							
4	F2	36 3年以上	6 障害特性により、十分な支援体制が必要	9 ケアホーム	22 行政職員による訪問指導	9 特になし	11 金銭管理に関するサービス	19 特になし	43							
5	F3	5 5年以上	12 退院意欲の低下	27 福祉ホーム	12 精神科救急医療体制	1	通院支援	19								
6	F4	2 10年以上	10 社会経験がない・日常生活維持能力がない	22 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	2 デイケア	18	休日・夜間の相談体制	10								
7	F5	0 20年以上	7 家族がいない	5 養護老人ホーム	3 ナイトケア	2	いこいの家	3								
8	F6	2	0 家族力の低下で支援がえられない	24 介護保険外のケア付高齢者住宅	2 デイ・ナイトケア	10	地域活動支援センター	11								
9	F7	0	0 家族が退院に同意しない	16 その他	1 その他	0	自助グループ	1								
10	F8	0	0 住まい退院先がない	20 特になし	7 特になし	7	その他	4								
11	F9	0	0 高齢者施設申請中	1			特になし	9								
12	てんかん	0	0 その他	0												
13	その他	0	0													
合計		46	46	152	86	111	47	118	46							

※については複数選択



5 退院可能とされた人の概要 年代別(65才以上)

質問項目(i)で退院可能な病状であるされた人について、年齢別に分類した。
65才以上の対象者について、下記の通りとまとめた。

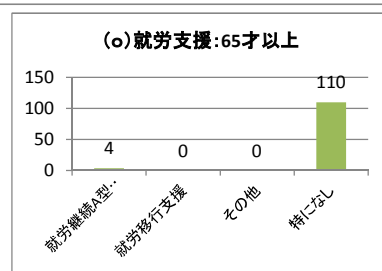
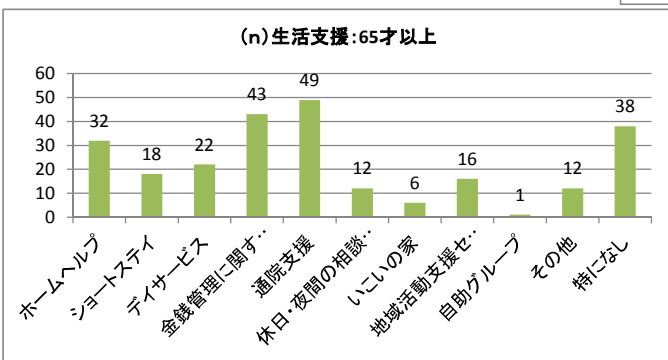
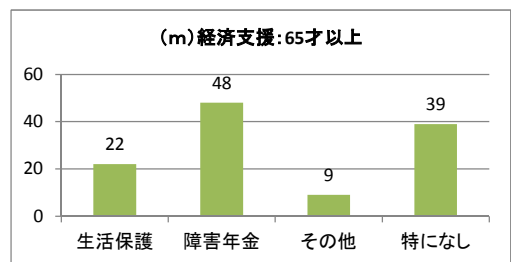
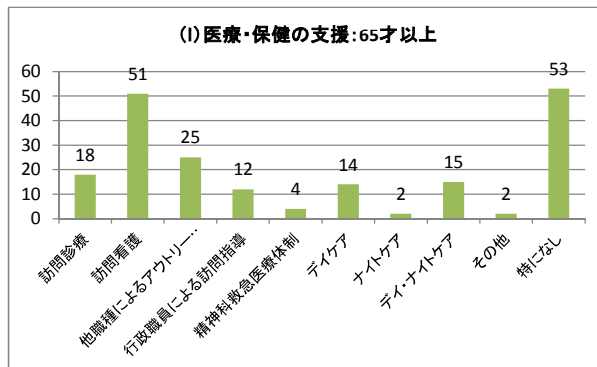
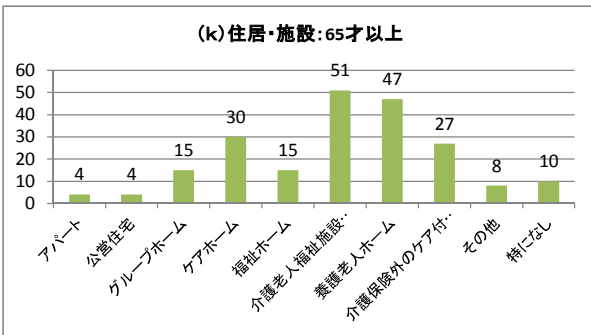
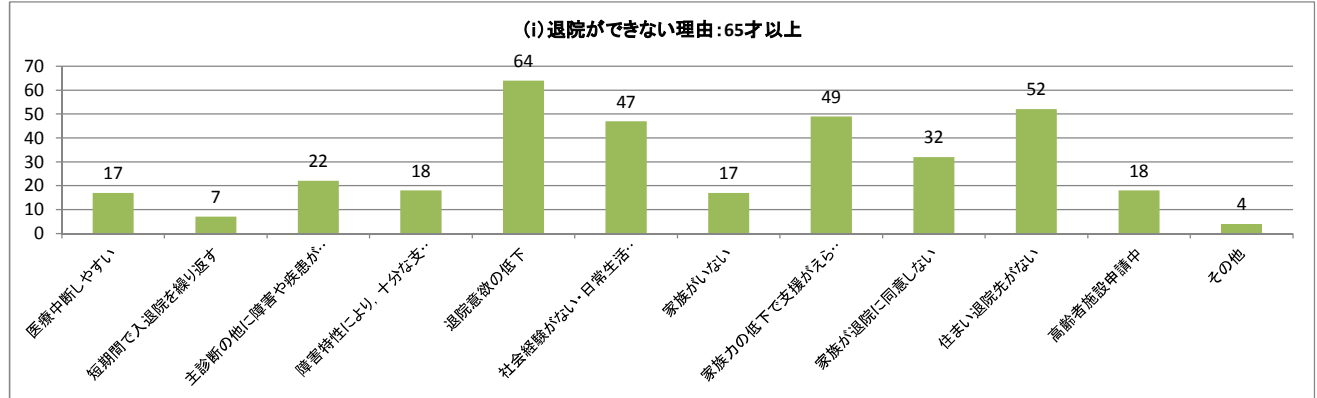
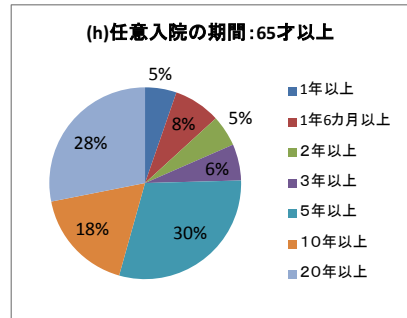
【ポイント】

- ・65才以上で退院可能な病状であるとされたのは、114名。
- ・任意入院期間が5年以上の人は86名(約76%)おり、うち20年以上の人も32名いた。
- ・退院できない理由としては、「退院意欲の低下」が最も多く64名、次いで「住まい・退院先がない」が52名、「家族力の低下により支援が得られない」が49名であった。
- ・退院の為に必要な「住居・施設」については、介護老人福祉施設(特養)が51名で最も多く、次いで養護老人ホーム47名と退院先に高齢者施設を考えているケースが多かった。
- ・退院の為に必要な「生活支援」については、通院支援49名で最も多かった。

表4 退院可能とされた人の概要 年代別(65才以上)

区分	病名	任意入院の期間	退院ができない理由※	住居・施設 ※	医療・保健の支援 ※	経済支援 ※	生活支援 ※	就労支援 ※	
									(g)
65才～	F00～03	9 1年以上	6 医療中断しやすい	17 アパート	4 訪問診療	18 生活保護	22 ホームヘルプ	32 就労継続A型またはB型	4
	F04～09	1 1年6か月以上	9 短期間で入退院を繰り返す	7 公営住宅	4 訪問看護	51 障害年金	48 ショートステイ	18 就労移行支援	0
	F1	2 2年以上	6 主診断の他に障害や疾患がある	22 グループホーム	15 他職種によるアウトリーチ支援	25 その他	9 デイサービス	22 その他	0
	F2	74 3年以上	7 障害特性により、十分な支援体制が必要	18 ケアホーム	30 行政職員による訪問指導	12 特になし	39 金銭管理に関するサービス	43 特になし	110
	F3	15 5年以上	34 退院意欲の低下	64 福祉ホーム	15 精神科救急医療体制	4	通院支援	49	
	F4	3 10年以上	20 社会経験がない・日常生活維持能力がない	47 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	51 デイケア	14	休日・夜間の相談体制	12	
	F5	0 20年以上	32 家族がいない	17 養護老人ホーム	47 ナイトケア	2	いこいの家	6	
	F6	2	家族力の低下で支援がえられない	49 介護保険外のケア付高齢者住宅	27 デイ・ナイトケア	15	地域活動支援センター	16	
	F7	6	家族が退院に同意しない	32 その他	8 その他	2	自助グループ	1	
	F8	0	住まい退院先がない	52 特になし	10 特になし	53	その他	12	
	F9	1	高齢者施設申請中	18			特になし	38	
	てんかん	1	その他	4				0	
	その他	0							
合計	114	114	347	211	196	118	249	114	

※については複数選択



6 まとめ

- ▼対象者の60%以上が65才以上であり、年齢が高いグループ程、入院期間が長期になっている。これらのことから、年齢が若い層は入退院の回転が良く、高齢になるにつれ退院が難しくなっている状況が推測される。
- ▼退院のために必要な「施設・住居」について49才以下のグループでは、「グループホーム」が最も多かったのに対し、50才～64才のグループでは、「ケアホーム」が最も多く、年齢があがるにつれ、より手厚い支援のある環境が必要と考えられる。また、65才以上のグループについては、高齢者施設への退院が適当との判断が最も多かった。
- ▼グループホームの必要性について、今回の調査結果はあくまで支援者からの視点によるものであることから、当事者のニーズとは必ずしも一致しない可能性がある。
- ▼対象者の多くが高齢者であったことから、退院支援についても関係課と連携した対策の検討も必要である。